

将来の県立高校に関する高校生との意見交換会

1. 開催概要

(1) 日 時

令和6年12月17日(火)16:30~17:00

(2) 参加者

知事、教育長、高校生とやま県議会参加の高校生（県立高校、私立高校、特別支援学校より）45名

(3) 方 法

参加生徒に事前に質問項目を示し、各学校で話し合った意見を書面にまとめた上で意見交換会に参加



2. 主な意見（当日の発言及び書面で提出された回答より）

(1)「県立高校の目指す姿（案）」では、複数の学科があり多くの仲間と交流できる規模の大きな学校（1学年 400～480 人）の設置を検討しています。このような学校をどう思いますか。また、どんな学校になるとよいと思いますか。

主 な 意 見
自分の高校は普通科と専門学科がある複合的な高校だが、他学科の授業を受けられる点が最も魅力的であると思う。目指す進路に向けて専門性を高めることができる。多くの学科を有する高校には、このような制度を採り入れればよいと考える。
多くの仲間と交流できる点、や複数の学科があることで選択の幅を広げられる点、コミュニケーション能力を向上することができる点など、利点がある。
より多くの人と3年間接することができるので、コミュニケーション能力の向上だけでなく、小さな社会としてそれぞれ異なる考えや価値観を知ることによって人格形成につながり、生徒一人一人のウェルビーイングにつながるため良いと感じた。
規模の大きな学校があるといいと思う。規模が大きいほど多くの生徒と学校で共同生活をするため、多様な価値観をもった生徒と交流する機会が増え、将来世の中に出て様々な人と関わる上で生かされる経験ができる。
大規模校の良さはあると思うが、みんなが入学したいとは限らないので、小・中規模校も残してほしい。学科の選択肢と学校を選択肢は多い方が間違いがなくなると思う。
人数が多いことで、一人一人を見る機会は減りがちになるかと思う。小規模校と比べて遜色のない個人への目があればいいなと考える。
人数が多いと、授業についていけない生徒がいるから、そんな生徒が学びやすい環境を作ってほしい。
人が多く集まるため、人間関係でのトラブルが発生したり、人に流される人が多くなったりすると思う。
わざわざ規模の大きな学校にせずとも、中規模校同士の繋がりを作れば多くの人と交流できると思う。
工業科など、他学科の生徒が学んでいる内容も知りたいと思うので、多学科併設であると、別の専門科目を学ぶことで別に視点が得られるので、複数学科設置にも賛成。
多くの生徒が様々な地域から通学することになると思うので、不便な場所からも通学がしやすいように駅の近くなど交通手段の便利な場所にあるとよいと思う。
通学範囲が広がることを考慮すると、学校は駅から近い場所に設置されることが望ましい。
部活動の面で、大規模校ならではの特徴（例えばホッケーのようなマイナースポーツ）を出すことができればよいと思う。
部活動の人数が増え、部活動の質が良くなり、交流が活発になると思う。
規模の大きな学校の設置はいいと思う。人数が多い学校にすることで、たくさんの行事ができると思う。球技大会や修学旅行、体育大会など人数が多いと多学年との交流も充実し、より楽しい行事になると思う。
学校行事では、一人一人の活躍の場が限られると思うので、その点を配慮すれば、人数が多くても充実した学校行事が行える学校になると思う。
人数が多い分、行事などで係や役割分担のない生徒が現れる可能性があり、一人一人が活躍する場や機会が少なくなるなどデメリットもある。
採算面で小規模や中規模では設置が難しい食堂も、大規模校であれば設置が可能である。

(2) 中学・高校の6年間を継続的に学ぶことができる中高一貫教育校についてどう思いますか。どんな学校であればその学校で学びたいですか。

主 な 意 見
高校生が中学生に教えたり、中学生は高校生の姿を見ることで、中学生は近い将来を見通すことができ、高校生も手本となるべきという思いから、よい緊張感を持って学校生活を送れる。
6年間通わなければならないのであれば、小学校の時点で高校のことまで考えなければならない。
一般的な中学校や高校にはない、例えば海外留学や専門家を招いたワークショップなどのカリキュラムが用意されており、幅広くも深い知識、学びが得られる中高一貫教育校であれば、ぜひその学校で学びたい。
公立の中学校のカリキュラムでは進むのが遅すぎると感じる人もいれば、十分だと思える人もいるので、県立の中高一貫校があれば、選択の幅が広がって自分にとって良い教育を受けられる子ども達が増えると思う。
授業進度が早くなり、授業についてこれない生徒が増えるが、学力に自信がない生徒に対しては、授業の進度や内容に配慮し、個々の学習状況に応じた支援体制が必要だと考える。
高校受験がないため、本来あるべき緊張感が薄れ、勉強に向き合うきっかけがなくなるのではないか。
固定化された人間関係の中で過ごすよりも、中学、高校と別の人たちと関われる方が、成長できると思う。
大きな変化がなく、ゆとりある環境で6年間過ごせること、好きなこと、得意なことに集中できるという面ですごく魅力的。
6年間同じメンバーでやっていくので、仲良く暮らすことができる反面、どうしても人間関係のトラブルがあるので、先生方などでカウンセリングなどの安心した相談の機関を設けるといいと思う。
入学後に進路希望が変わったら、いろいろ大変そう。転入／転出の仕組みが必要。

(3) 今後も生徒数が減少していく中で、県立高校がどのように進化していけばよいと思いますか。

主 な 意 見
他校との交流や合同活動を増やすことで、学校外の人たちとの人間関係を築く場があるとよいと考える。
「目指す姿」にあるように「様々な学科構成×様々な学校規模＝幅広い選択肢の提供」していくことが、未来の高校生のためには重要だと考える。生徒一人一人に合った授業を受けることができれば、生徒たちが持つ能力を十分に引き出し、様々なことへ挑戦する手助けをすることができると考える。
特色のある学科があれば、県内生徒がふるさと富山への愛着を深め、将来的に地元へ根付く可能性が高まるのではないか。
商業科、工業科、農業科等の学科が一つに集まった学校があったらいいと思う。
選択授業を増やして、得意な教科や好きな授業をもっと学ぶ。生徒の希望や将来の職業像が変化していく時代だから、いろんな選択ができる自由度があるといい。
色々なタイプの高校を設置する(多様化)。部活動強化型やICT情報特化型の欧米風(制服やクラス概念がない)型など、学ぶ内容だけではなく、設備や学校規模、校風など学校の特徴がはっきりしている。
部活など生徒たちが意見を出し合って、行事などやりたいことを作り上げていける学校になればよい。
生徒会の権限を大きくするなど、生徒が主体的に学校運営に関われる、生徒の意見がより反映できる学校になるとよい。